資料　9

平成18年5月10日運営委員会提出資料

若年層献血意識に関する調査結果の概要（案）

Ⅰ　調査の概況

1　調査の目的

近年、献血者数は減少傾向にあり、特に若年層の献血者の減少が著しい。

これに加え、平成１７年２月、国内で初めて変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（ｖＣＪＤ）患者が確認されたことから、輸血を通じたｖＣＪＤの伝播を防ぐための献血制限の強化等により、血液製剤の安定供給の確保に支障を来すおそれが生じている。

こうした中、少子高齢化に伴う献血可能人口の減少など、将来にわたって安定的に血液製剤を供給していくためには、若年層献血者の確保を図ることが重要であることから、若年層の献血に対する意識を把握し、献血推進方策等を検討する上での基礎資料を得ることを目的として本調査が実施された。

2　調査の対象者

１６歳から２９歳の献血経験者及び献血未経験者

※ 献血経験者　：過去に１度でも献血の経験がある者

※ 献血未経験者：今まで１度も献血の経験がない者（採血前の検査で基準を満たさないため献血できなかった者を含む。）

3　調査の時期

平成１８年１月２０日～２月３日
「はたちの献血」キャンペーン期間中

4　調査の方法

委託先調査会社が保有している一般消費者パネルに対して、インターネットを通じて調査票を送付し、地域区分ごとに一定数に達するまでの回答を収集する。

5　調査の内容

調査の内容は、大別すると次の事項に分けられる。

① 献血に関する認知度や献血へのイメージについて

② 献血を行った時期やきっかけについて

6　調査票の回収状況

区　　分	献血経験者	献血未経験者	合　　計
北海道	２００	２００	４００
東北	３５０	３５０	７００
関東甲信越	１，８００	１，８００	３，６００
東海北陸	７５０	７５０	１，５００
近畿	８５０	８５０	１，７００
中国・四国	４５０	４５０	９００
九州・沖縄	６００	６００	１，２００
合　計	５，０００	５，０００	１０，０００

Ⅱ　調査結果の概要

1　献血未経験者

■ 基本情報（回答者５０００人）

① 性別では、男性が 1,688 人（33.8%）、女性が 3,312 人（66.2%）であった。

② 年齢別では、２５～２９歳が 2,882 人（57.6%）、次いで２０～２４歳が 1,539 人（30.8%）、１８～１９歳が 304 人（6.1%）、１６～１７歳が 275 人（5.5%）であった。

③ 職業別では、会社員が 1,596 人（31.9%）、次いでその他が 999 人（20.0%）、大学生・専門学校生が 932 人（18.6%）、専業主婦が 856 人（17.1%）、高校生が 398 人（8.0%）、自営業が 115 人（2.3%）、公務員 104 人（2.1%）であった。

④ 医療関係従事者は 300 人（6.0%）であった。

■ 献血に関する認知度や献血へのイメージ

献血未経験者の４人に１人（26.2%）が献血を知らないと回答。
また、献血ルームのイメージについて、「明るい」が 18.2%で「暗い」の 20.6%とネガティブイメージが上回っていた。

Ｑ１　献血に関する認知度について、「ある程度知っている」が 3,268 人（65.4%）、「よく知っている」が 421 人（8.4%）で、献血を知っている者が全体の７割を超えていた。

Ｑ２　献血への関心について、「関心がある」が 2,291 人（45.8%）、「非常に関心がある」が 318 人（6.4%）で、献血に関心がある者が全体の５割を超えていた。

Ｑ３　献血に関する広報で接触したことがある媒体としては、「街頭での呼びかけ」が 3,485 人（69.7%）、次いで「献血バス」が 3,261 人（65.2%）、「テレビ」が 3,006 人（60.1%）であった。（複数回答）

Ｑ４　献血の呼びかけとして効果があると思った媒体としては、「テレビ・新聞・ラジオを使った呼びかけ」が 2,569 人（51.4%）、次いで「街頭や職場、学校等での呼びかけ」が 1,921 人（38.4%）、「献血に関するイベントでの呼びかけ」が 1,167 人（23.3%）であった。（複数回答）

Ｑ５ 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体としては、「テレビ」が 4,445 人（88.9%）、次いで「インターネット」が 2,094 人（41.9%）、「新聞」が 1,409 人（28.2%）であった。（複数回答）

Ｑ６　「氷川きよし」キャンペーン起用について、「テレビで見た」が 1,465 人(29.3%)、「ポスターで見た」が 817 人(16.3%)で、全体の５割が認知していた。

Ｑ７　キャンペーンキャラクターとして起用すべきタレントは、「上戸彩」が 302 人（6.0%）、「仲間由紀恵」が 248 人（5.0%）、「木村拓哉」が 138 人（2.8%）であった。

Ｑ８　「けんけつちゃん」の認知度は、148 人（3.0%）。職業別では、高校生 20 人（5.0%）が、また、地域別では、東北 14 人（4.0%）の認知度が高かった。

Ｑ９　献血キャンペーン（「愛の血液助け合い運動」、「はたちの献血キャンペーン」）の認知度は、「知っている」が 1,297 人（25.9%）で、「知らない」が 3,703 人（74.1%）であった。

Ｑ１０　高校生向けの献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布された記憶について、「知らない」が 4,646 人（92.9%）で、記憶ありは 354 人（7.1%）であった。

Ｑ１１　エイズ検査結果の非通知について、「知っている」が 1,460 人（29.2%）、「知らせていると思った」が 1,554 人（31.1%）、「そもそも検査していることを知らなかった」が 1,986 人（39.7%）であった。

Ｑ１２　献血で感染症に感染しないことについて、「知っている」が 3,044 人（60.9%）、「知らない」が 1,956 人（39.1%）であった。

Ｑ１３　血液製剤を未だ海外血液に依存していることについて、「知っている」が 1,132 人（22.6%）で、「知らない」が 3,868 人（77.4%）であった。

Ｑ１４　献血ルームのイメージについて、「暗い」が 1,030 人（20.6%）で、「明るい」908 人（18.2%）を上回っていた。

■ 献血をしたことがない理由等

献血未経験者が献血しない１番の理由としては、
- 針を刺すのが痛くて嫌だから（14.2%）
- 何となく不安だから（6.5%）
- 恐怖心（5.0%）
- 血を採られているという感じが嫌だ（4.6%）

といった「採血の際の痛みや不安」が全体の３割を占めていた。

Ｑ１５　献血をしたことがない理由として１番目に挙げられたもののうち最も回答が多かったのは、「針を刺すのが痛くて嫌だから」の 711 人（14.2%）であった。

また、献血をしたことがない理由を３つまで列挙してもらい、その中で挙げられた理由について見ると、「針を刺すのが痛くて嫌だから」が 1,455 人（29.1%）、次いで「何となく不安だから」が 1,397 人（27.9%）、「健康上出来ないと思ったから」が 1,138 人（22.8%）であった。

Ｑ１６　献血するきっかけとなり得る理由として１番目に挙げられたもののうち最も回答が多かったのは、「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」場合で 865 人（17.3%）であった。

また、献血するきっかけとなり得る理由を３つまで列挙してもらい、その中で挙げられた理由について見ると、「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」場合が 1,670 人（33.4%）、次いで「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された（麻酔など）」場合が 1,379 人（27.6%）、「献血が自分の健康管理の役に立つようになった」場合が 1.287 人（25.7%）であった。

２　献血経験者

■ 基本情報（回答者５０００人）

① 性別では、男性が 1,705 人（34.1%）、女性が 3,295 人（65.9%）であった。

② 年齢別では、２５～２９歳が 3,699 人（74.0%）、次いで２０～２４歳が 1,111 人（22.2%）、１８～１９歳が 145 人（2.9%）、１６～１７歳が 45 人（0.9%）であった。

③ 職業別では、会社員が 2,099 人（42.0%）、次いで専業主婦が 1,067 人（21.3%）、その他が 749 人（15.0%）、大学生・専門学校生が 652 人（13.0%）、公務員 203 人（4.1%）、自営業 143 人（2.9%）、高校生 87 人（1.7%）であった。

④ 医療関係従事者は 500 人（10.0%）であった。

■ 献血に関する認知度や献血へのイメージ

「街頭での呼びかけ」や「献血バス」に出会ったことがあるとした割合が多く、ともに7割を超えていた。
献血の呼びかけとして効果があると思った媒体は、「テレビ・新聞・ラジオを使った呼びかけ」57.8%と最も高く、次いで「街頭や職場、学校等での呼びかけ」49.1%であった。
献血ルームのイメージについて、「明るい」が 42.1%で「暗い」の 8.3%を大きく上回っていた。

Q１　献血に関する広報で接触したことがある媒体としては、「街頭での呼びかけ」が 3,910 人（78.2%）、次いで「献血バス」が 3,765 人（75.3%）、「テレビ」が 3,330 人（66.6%）であった。（複数回答）

Q２　献血の呼びかけとして効果があると思った媒体としては、「テレビ・新聞・ラジオを使った呼びかけ」が 2,888 人（57.8%）、次いで「街頭や職場、学校等での呼びかけ」が 2,457 人（49.1%）、「献血に関するイベントでの呼びかけ」が 1,619 人（32.4%）であった。（複数回答）

Q３　献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体としては、「テレビ」が 4,375 人（87.5%）、次いで「インターネット」が 2,195 人（43.9%）、「新聞」が 1,521 人（30.4%）であった。（複数回答）

Q４　「氷川きよし」キャンペーン起用について、「テレビで見た」が 1,763 人（35.3%）、「ポスターで見た」が 1,544 人（30.9%）で、全体の７割弱が認知していた。

Q５　キャンペーンキャラクターとして起用すべきタレントは、「上戸彩」が 285 人（5.7%）、「仲間由紀恵」が 221 人（4.4%）、「木村拓哉」が 155 人（3.1%）であった。

Q６　「けんけつちゃん」認知度は、350 人（7.0%）。地域別では、「東北」が 46 人（13.1%）で他の地域と比べ高く、職業別では、「高校生」が 17 人（19.5%）で他の職業に比べ高かった。

Ｑ７　献血キャンペーン（「愛の血液助け合い運動」、「はたちの献血キャンペーン」）の認知度は、「知っている」が 2,322 人（46.4%）で、「知らない」が 2,678 人（53.6%）であった。

Ｑ８　高校生向けの献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布された記憶について、「知らない」が 4,470 人（89.4%）で、記憶ありは 530 人 10.6%であった。

Ｑ９　エイズ検査結果の非通知について、「知っている」が 3,200 人（64.0%）、「知らせていると思った」が 1,039 人（20.8%）、「そもそも検査していることを知らなかった」が 761 人（15.2%）であった。

Ｑ１０　献血で感染症に感染しないことについて、「知っている」が 3,995 人（79.9%）、「知らない」が 1,005 人（20.1%）であった。

Ｑ１１　血液製剤を未だ海外血液に依存していることについて、「知っている」が 1,540 人（30.8%）で、「知らない」が 3,460 人（69.2%）であった。

Ｑ１２　献血ルームの雰囲気について、「ふつう」が 2,479 人（49.6%）、「明るい」が 2,106 人（42.1%）、「暗い」が 415 人（8.3%）であった。

献血ルームの広さについて、「ふつう」が 2,728 人（54.6%）、「狭い」が 1,225 人（24.5%）、「広い」が 1,047 人（20.9%）であった。

献血ルームの職員の対応について、「ふつう」が 2,875 人（57.5%）、「良い」が 1,890 人（37.8%）、「悪い」が 235 人（4.7%）であった。

献血ルームの処遇（記念品や軽い飲食物）について、「ふつう」が 2,576 人（51.5%）、「良い」が 1,836 人（36.7%）、「悪い」が 588 人（11.8%）であった。

■ 献血を行った時期やきっかけ

現在、献血する理由（大きい順の３つまでの計）は、「自分の血液が役に立ってほしいから」が 3,367 人（67.3%）、次いで「輸血用の血液が不足していると聞いたから」が 2,382 人（47.6%）、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」が 2,064 人（41.3%）であった。

Ｑ１５　初めて献血した年齢は、「１６～１７歳」が 1,728 人（34.6%）、「１８～１９歳」が 1,528 人（30.6%）で、１０代での献血が全体の６割を超えていた。

Ｑ１６　初めて献血した場所は、「献血バス」が 1,856 人（37.1%）、次いで「献血ルーム」が 1,629 人（32.6%）、「高校での集団献血」が 1,131 人（22.6%）であった。

Ｑ１７　初めての献血の種類は、「２００ｍｌ献血」が最も多く 3,117 人（62.3%）で、「４００ｍｌ献血」が 946 人（18.9%）、「成分献血」が 276 人（5.5%）であった。

Ｑ１８　過去１年間の献血回数は、

２００ｍｌ献血では、「１回」が 1,115 人（22.3%）、「２回」が 435 人（8.7%）、「３回」が 244 人（4.9%）、「４～６回」が 231 人（4.6%）で、２回以上の合計は 910 人（18.2%）であった。

４００ｍｌ献血では、「１回」が 831 人（16.6%）、「２回」が 317 人（6.3%）、「３回」が 171 人（3.4%）で、２回以上の合計は 488 人（9.8%）であった。

成分献血では、「１回」が 386 人（7.7%）、「２回」が 170 人（3.4%）、「３回」が 106 人（2.1%）、「４回以上」が 278 人（5.6%）で、２回以上の合計は 554 人（11.1%）であった。

Ｑ１９　今までの合計献血回数は、「１回」が 1,409 人（28.2%）、次いで「３～５回」が 1,363 人（27.3%）、「２回」が 813 人（16.3%）で、全体の７割以上が複数回の献血者であった。

Ｑ２０　初めて献血した際のきっかけとして１番目に挙げられたもののうち最も回答が多かったのは、「自分の血液が役に立ってほしいから」の 1,686 人（33.7%）であった。

Ｑ２１　現在、献血する理由として１番目に挙げられたもののうち最も回答が多かったのは、「自分の血液が役に立ってほしいから」の 2,196 人（43.9%）であった。

また、献血する理由を３つまで列挙してもらい、その中で挙げられた理由について見ると、「自分の血液が役に立ってほしいから」が 3,367 人（67.3%）、次いで「輸血用の血液が不足していると聞いたから」が 2,382 人（47.6%）、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」が 2,064 人（41.3%）であった。

Ｑ２２　高校での集団献血がその後の動機付けとなっているかについては、「どちらかといえば有効」が 2,274 人（45.5%）、「非常に有効」が 1,022 人（20.4%）で、有効であるとの評価が全体の７割弱を占めていた。

■ その他

Ｑ１４　献血についての要望・知りたいことについて、「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」が 2,116 人（42.3%）で、次いで「献血したときの処遇品（記念品）をもっと良くしてほしい」が 2,101 人（42.0%）、「献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい」が 1,933 人（38.7%）であった。（複数回答）

（参考）

「献血未経験者」と「献血経験者」の回答比較（同一の設問）

項　　目	献血未経験者	献血経験者
献血に関する広報で接触したことがある媒体		
街頭での呼びかけ	3,485人(69.7%)	3,910人(78.2%)
献血バス	3,261人(65.2%)	3,765人(75.3%)
テレビ	3,006人(60.1%)	3,330人(66.6%)
献血の呼びかけとして効果があると思った媒体		
テレビ・新聞・ラジオを使った呼びかけ	2,569人(51.4%)	2,888人(57.8%)
街頭や職場、学校等での呼びかけ	1,921人(38.4%)	2,457人(49.1%)
献血に関するイベントでの呼びかけ	1,167人(23.3%)	1,619人(32.4%)
献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体		
テレビ	4,445人(88.9%)	4,375人(87.5%)
インターネット	2,094人(41.9%)	2,195人(43.9%)
新聞	1,409人(28.2%)	1,521人(30.4%)
「氷川きよし」キャンペーン起用について		
テレビで見た	1,465人(29.3%)	1,763人(35.3%)
ポスターで見た	817人(16.3%)	1,544人(30.9%)
キャンペーンキャラクターとして起用すべきタレント		
上戸彩	302人(6.0%)	285人(5.7%)
仲間由紀恵	248人(5.0%)	221人(4.4%)
木村拓哉	138人(2.8%)	155人(3.1%)
「けんけつちゃん」の認知度		
知っている	148人(3.0%)	350人(7.0%)
献血キャンペーン（「愛の血液助け合い運動」、「はたちの献血キャンペーン」）の認知度		
知っている	1,297人(25.9%)	2,322人(46.4%)
知らない	3,703人(74.1%)	2,678人(53.6%)
高校生向けの献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布された記憶		
記憶あり	354人(7.1%)	530人(10.6%)
知らない	4,646人(92.9%)	4,470人(89.4%)
エイズ検査結果の非通知について		
知っている	1,460人(29.2%)	3,200人(64.0%)
知らせていると思った	1,554人(31.1%)	1,039人(20.8%)
そもそも検査していることを知らなかった	1,986人(39.7%)	761人(15.2%)
献血で感染症に感染しないことについて		
知っている	3,044人(60.9%)	3,995人(79.9%)
知らない	1,956人(39.1%)	1,005人(20.1%)
血液製剤を未だ海外血液に依存していることについて		
知っている	1,132人(22.6%)	1,540人(30.8%)
知らない	3,868人(77.4%)	3,460人(69.2%)
献血ルームの雰囲気		
明るい	908人(18.2%)	2,106人(42.1%)
暗い	1,030人(20.6%)	415人(8.3%)

若年層献血意識調査要綱

1　調査目的

わが国の血液事業は、昭和４９年に輸血用血液製剤の国内自給が達成され、今日に至るまで安定供給の確保が図られている。

しかし、近年、献血者数は減少傾向にあり、特に若年層の献血離れは深刻なものとなっていることから、献血推進の枠組みについての見直しが求められているところである。

こうした状況を踏まえ、平成１７年度に「若年層献血意識調査」を実施し、その後、「献血構造改革」による事業の開始をはじめとする新たな施策が実施されたところであるが、依然、若年層の献血者は減少傾向にあることから、今般、平成１７年度と同様の意識調査を実施し、前回調査データとの比較を行うことにより、若年層の献血に関する意識等に変化があるのかどうかを検証・評価を行い、今後の若年層に対する献血推進の枠組みの検討に資することを目的とする。

（１）調査内容

①　献血への関心度や献血へのイメージを把握する。

②　献血に関する認知度を把握する。

③　献血を行った時期やきっかけを把握する。

④　①～③について、平成１７年度の調査結果との比較を行う。

（２）調査の活用

若年層の献血意識の変化や内容を把握・検証し、今後の献血推進方策の検討に資する。

2　調査方法

（１）調査手法

インターネット調査

例：モニター調査、委託業者のＨＰ上での調査　等

（２）調査対象

１０，０００客体　（献血経験者、献血未経験者それぞれ５，０００客体）

全国を以下の７ブロックに分け、各ブロックの若年層人口（15 ～ 29 歳）の全国に占める割合に応じてブロックごとの客対数を決定する（参考：前回客対数→別紙）。

・ブロック①（北海道）

・ブロック②（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）

・ブロック③（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨）

・ブロック④（富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重）

・ブロック⑤（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）

・ブロック⑥（鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知）

・ブロック⑦（福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄）

（３）調査時期　　平成２０年９月上旬～１０月上旬

3　調査手順

（１）調査会社と契約し、別添調査票によりインターネット調査を実施。

＊「献血経験者用」の問１３と問１７、問２０と問１７並びに問１３と問２２は関連づけて集計する。

（２）集計、前回調査結果との比較・解析後、「献血推進のあり方に関する検討会」に報告。

（３）報告書を薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会に報告。

（４）報告書を各都道府県に送付。

資料 10－2

献血未経験者用

若年層献血意識調査

太字下線は１７年度調査との比較を行う設問

問１　献血について知っていますか。
　１．よく知っている　　２．ある程度知っている　　３．まったく知らない

問２　献血の種類（※）を知っていますか。
　１．知っている　　２知らない
※　…献血の種類には、すべての血液の成分を採血する全血献血（200mL または 400mL）と、必要な血液の成分だけを採血する成分献血（血漿成分献血または血小板成分献血）があります。

問３　献血がどこでできるか知っていますか。(※)
　１．知っている　　２．ある程度知っている　　３．知らない
※　…献血は、①献血ルーム　②献血バス　③血液センター　④会社や団体での出張献血ですることができます。

問４　献血について関心がありますか。
　１．非常に関心がある　２．関心がある　３．特に関心がない　４．全く関心がない

問５　献血は患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。
　１．知っている　　２．知らない

問６　献血へ協力してくださる若い方の数が、近年大幅に減っています(※)。知っていましたか。
　１．知っている　　２．知らない
※　…最近５年間で 20 代の献血者数は 161 万 8 千人から 113 万 5 千人（30%減）に、10 代の献血者数は 56 万 4 千人から 32 万 4 千人（43%減）も減少しています。

問７　献血に関して、どのような広報媒体を見たこと（聞いたこと）がありますか（複数回答可）。
　１．テレビ　　２．ラジオ　　３．新聞　　４．街頭での呼びかけ
　５．献血ルーム前の看板・表示　　６．チラシの配布
　７．ポスターの掲示　　８．献血関係のイベント　　９．自治体の広報誌　　10．雑誌等
　11．インターネット　　12．献血バス
　13．その他（　　）
　14．何かで見た（聞いた）が、何の媒体か覚えていない
　15．見たこと（聞いたこと）がない

問８　献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか（複数回答可）。
　１．テレビ　　２．ラジオ　　３．新聞　　４．雑誌　　５．自治体の広報誌
　６．インターネット　　７．携帯電話　　８．ポスター
　９．その他（　　）

問９　厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。
　１．知っている　　２．知らない

問 10　献血に関するキャンペーンを知っていますか。
（毎年７月：愛の血液助け合い運動　　毎年１～２月：「はたちの献血」キャンペーン）
　１．知っている　　２．知らない

問 11　平成 2 年から、全国の高校 3 年生を対象に、献血に関する普及啓発資材「HOP　STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。

1．保健体育の授業で使用した　　2．他の授業で使用した　　3．配布されただけ
4．知らない

※ 参考（平成 19 年版　高校生副読本「HOP STEP JUMP」→
http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/2e/index.html をご覧下さい）

問 12　献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。

1．知っている　　2．知らない

問 13　血液製剤（※）は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。

1．知っている　　2．知らない

※…重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ６０％台である。

問 14　献血ルームのイメージを教えてください。

1．明るい　　2．ふつう　　3．暗い　　4．わからない

問 15　献血したことがないのはどのような理由からですか。
理由の大きい順に３つまで、その番号をお選びください。

1．献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた
2．献血している所に入りづらかったから
3．呼び込みが強引で嫌だったから
4．献血場所が遠いので面倒だから
5．近くに献血する場所や機会がなかったから
6．どこで献血ができるか分からない
7．時間がかかりそうだから
8．忙しくて献血する時間がなかったから
9．自分が献血しなくても誰かがやると思ったから
10．自分の血液が役に立たないと思ったから
11．血液が無駄にされていると聞いたから
12．針を刺すのが痛くて嫌だから
13．なんとなく不安だから
14．健康上出来ないと思ったから
15．病気がうつると思ったから
16．献血すると言ったら、友人や家族からとめられた
17．血を採られるという感じが嫌だ
18．恐怖心
19．職員の態度が悪いので献血したくない
20．献血する意志がない
21．海外渡航歴等による献血制限で献血したくてもできない
22．薬を服用しているので献血ができない
23．わからない
24．その他

1番目 [　　]　2番目 [　　]　3番目 [　　]

24 を選んだ場合の具体的な理由

[　　]

問16 あなたが献血するきっかけとなり得る項目を選択してください。
きっかけの大きい順に３つまで、その番号をお選びください。
なお、13、14番を選択した方は、具体例を教えてください。

1．家族や友人などから勧められた
2．献血しているところが入りやすい雰囲気になった
3．近くに献血する場所ができた（献血ルーム）
4．近くに献血する場所ができた（献血バスまたは出張献血）
5．キャンペーンやイベント等により献血が身近に感じられるようになった
6．好きなタレントがキャンペーンに起用されていた
7．献血の重要性が明確になった
8．血液が無駄になってないことが分かった
9．針が細くなった
10．針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された（麻酔など）
11．献血で病気がうつることはないと知った
12．献血ルームの受付時間が長くなった
13．献血したときの処遇品（記念品）が良くなった
14．献血ルームのサービスが良くなった
15．献血が自分の健康管理の役に立つようになった
16．職員の態度が良くなった
17．海外渡航歴等の献血制限が解除された
18．献血が健康にほとんど害がないということが分かった
19．献血できる場所が分かった
20．献血は絶対しない

１番目 [　　]　２番目 [　　]　３番目 [　　]

13を選んだ場合の具体例 [　　]

14を選んだ場合の具体例 [　　]

20を選んだ場合の理由 [　　]

問17 ご家族が献血している姿を見たことがありますか。
１．ある　２．ない　３．おぼえていない

問18 あなたのお友達に献血をしている人はいますか。
１．いる　２．いない　３．わからない

問19 現在お住まいの地域は、以下のうちどちらになりますか。
１．北海道　２．東北　３．関東甲信越　４．東海北陸　５．近畿
６．中国・四国　７．九州・沖縄

問20 現在おいくつですか。
１．16～17歳　２．18～19歳　３．20～24歳　４．25歳～29歳

問21 あなたの性別を教えてください。
１．男性　２．女性

問22　現在のご職業を教えてください。

1．高校生　　2．大学生・専門学校生　　3．会社員　　4．公務員　　5．自営業
6．専業主婦　　7．その他

問23　あなたは学業及び職業で、医療関係に携わっていますか。

1．はい　　2．いいえ

問24　献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。
資料は、下の資料ボタンをクリックするとＰＤＦデータでご確認いただけます。

a　献血の必要性への理解は良くなりましたか。
1．はい　　2．どちらかというとはい　　3．どちらかというといいえ　　4．いいえ

b　今は献血に協力する気持ちはありますか。
1．ある　　2．どちらかというとある　　3．どちらかというとない　　4．ない

c　今後、実際に献血に行きますか。
1．はい　　2．どちらかというとはい　　3．どちらかというといいえ　　4．いいえ

問 25　若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。
広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

以上で献血に関するアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

わが国は、輸血などの血液製剤を献血により安全に安定して国内自給することを目指している世界でも数少ない国です。
今後とも、献血への御理解と御協力をお願いいたします。

なお、最後に、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」をどうぞよろしくお願いします。

プロフィールはこちら　→　http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/1i.html

献血経験者用

若年層献血意識調査

太字下線は１７年度調査との比較を行う設問

問１　献血は、患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。
１．知っている　　２．知らない

問２　献血へ協力してくださる若い方の数が、近年大幅に減っています(※)。知っていましたか。
１．知っている　　２．知らない
※　…最近５年間で 20 代の献血者数は 161 万 8 千人から 113 万 5 千人（30%減）に、10 代の献血者数は 56 万 4 千人から 32 万 4 千人（43%減）も減少しています。

問3　献血に関して、どのような広報媒体を見たこと（聞いたことが）ありますか（複数回答可）。
１．テレビ　　２．ラジオ　　３．新聞　　４．街頭での呼びかけ
５．献血ルーム前の看板・表示　　６．チラシの配布
７．ポスターの掲示　　８．献血関係のイベント　　９．自治体の広報誌　　10．雑誌等
11．インターネット　　12．献血バス
13．その他（　　）
14．何かで見た（聞いた）が、何の媒体か覚えていない
15．見たこと（聞いたこと）がない

問４　献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか（複数回答可）。
１．テレビ　　２．ラジオ　　３．新聞　　４．雑誌　　５．自治体の広報誌
６．インターネット　　７．携帯電話　　８．ポスター
９．その他（　　）

問５　厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。
１．知っている　　２．知らない

問６　献血に関するキャンペーンを知っていますか。
（毎年７月：愛の血液助け合い運動　　毎年１～２月：「はたちの献血」キャンペーン）
１．知っている　　２．知らない

問７　平成 2 年から、全国の高校 3 年生を対象に、献血に関する普及啓発資材「HOP　STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。
１．保健体育の授業で使用した　　２．他の授業で使用した　　３．配布されただけ
４．知らない
※参考（平成 19 年版　高校生副読本「HOP STEP JUMP」→
http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/2e/index.html をご覧下さい）

問８　献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。
１．知っている　　２．知らない

問９　血液製剤（※）は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。
１．知っている　　２．知らない
※…重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ６０％台である。

問10 献血ルームのイメージを教えてください。

ルームの雰囲気	1．明るい	2．ふつう	3．暗い	4．わからない
ルームの広さについて	1．広い	2．ふつう	3．狭い	4．わからない
職員の対応について	1．良い	2．ふつう	3．悪い	4．わからない
記念品や軽い飲食物について	1．良い	2．ふつう	3．悪い	4．わからない

問11 献血について何か要望又は知りたいことがありますか。(複数回答可)

1．献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい
2．献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい
3．献血で昼休み、夜間などの受付時間を延長してほしい
4．職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい
5．献血された血液がどのように使われるのか知りたい
6．献血したときの処遇品（記念品）をもっと良くしてほしい
7．進学や就職時に献血の経験を考慮してほしい
8．学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい
9．その他（　　）
10. 特にない

問12 初めて献血をしたのはいつですか。

1．16～17歳　2．18～19歳　3．20～24歳　4．25歳～29歳

問13 初めて献血した場所はどこですか。　**← 問17、問22と関連づけて集計**

1．高校　2．大学キャンパス又は専門学校・各種学校
3．職場　4．献血バス（1～3以外）
5．献血ルーム（血液センター）　6．覚えていない

問14 初めての献血の種類は何ですか。

1．200mL献血　2．400mL献血　3．成分献血　4．覚えていない

問15 初めての献血で400mL献血をすることをどう思いますか。

1．特に不安は感じない　2．不安　3．わからない

2を選んだ場合の理由

問16 過去1年間に何回献血しましたか。

（1）２００mL献血
1．0回　2．1回　3．2回　4．3回　5．4回　6．5回　7．6回
（2）４００mL献血
1．0回　2．1回　3．2回　4．3回
（3）成分献血
1．0回　2．1回　3．2回　4．3回　5．4回　6．5回　7．6回　8．7回以上

問17 今までの献血回数は合計で何回ですか。　**← 問13、問20と関連づけて集計**

1．1回　2．2回　3．3～5回　4．6～10回　5．11～20回
6．21～30回　7．それ以上

問18 初めての献血のきっかけになったのは、次のうちどれですか。
きっかけの大きい順に３つまで、その番号をお選びください。

1．自分の血液が役に立ってほしいから
2．輸血用の血液が不足していると聞いたから
3．自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから
4．将来自分や家族などが輸血を受けることがあるかもしれないから協力した
5．過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから
6．お菓子やジュースがもらえるから
7．ネールアートやマッサージなどのサービスが受けられるから
8．図書券がもらえたから
9．なんとなく
10．輸血を受けるときに役立てたいから
11．家族や友人などに勧められたから
12．高校に献血バス・出張献血が来たから
13．大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから
14．覚えていない

１番目 [　　]　２番目 [　　]　３番目 [　　]

問19 現在献血するきっかけになっているのは、次のうちどれですか。
きっかけの大きい順に３つまで、その番号をお選びください。

1．自分の血液が役に立ってほしいから
2．輸血用の血液が不足していると聞いたから
3．自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから
4．将来自分や家族などが輸血を受けることがあるかもしれないから協力したい
5．過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから
6．お菓子やジュースがもらえるから
7．輸血を受けるときに役立てたいから
8．テレビやＤＶＤを観ることができるから
9．ネールアートやマッサージなどのサービスが受けられるから
10．なんとなく

１番目 [　　]　２番目 [　　]　３番目 [　　]

問20 ご家族が献血している姿を見たことがありますか。　**← 問17と関連づけて集計**
1．ある　2．ない　3．おぼえていない

問21 あなたのお友達に献血をしている人はいますか。
1．いる　2．いない　3．わからない

問22 高校での集団献血があれば、その経験がその後に献血する動機付けになると思いますか。
1．非常に有効　2．どちらかと言えば有効　3．あまり関係ない　4．全く関係ない
↑ 問13と関連づけて集計

問23 現在お住まいの地域は、以下のうちどちらになりますか。
1．北海道　2．東北　3．関東甲信越　4．東海北陸　5．近畿
6．中国・四国　7．九州・沖縄

問24 現在おいくつですか。
1．16～17歳　2．18～19歳　3．20～24歳　4．25歳～29歳

問25 あなたの性別を教えてください。
1．男性　　2．女性

問26 現在のご職業を教えてください。
2．高校生　2．大学生・専門学校生　3．会社員　4．公務員　5．自営業
6．専業主婦　7．その他

問27 あなたは学業及び職業で、医療関係に携わっていますか。
1．はい　2．いいえ

問28 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。
資料は、下の資料ボタンをクリックするとＰＤＦデータでご確認いただけます。

a　献血の必要性への理解は今までと比べ深まりましたか。
1．はい　2．どちらかというとはい　3．どちらかというといいえ　4．いいえ
b　資料を読んで献血に協力する気持ちは高まりましたか。
1．はい　2．どちらかというとはい　3．どちらかというといいえ　4．いいえ
c　アンケートへの記載及び資料を読んで献血に行く回数を増やそうと思いましたか。
1．はい　2．どちらかというとはい　3．どちらかというといいえ　4．いいえ

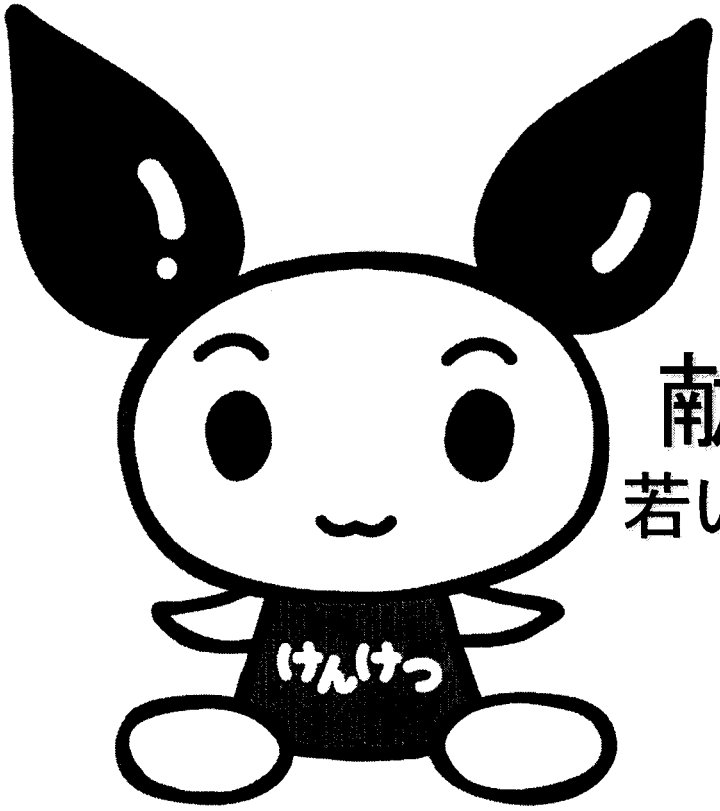
問 29　若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。
広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

以上で献血に関するアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

わが国は、輸血などの血液製剤を献血により安全に安定して国内自給することを目指している世界でも数少ない国です。
今後とも、献血への御理解と御協力をお願いいたします。

なお、最後に、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」をどうぞよろしくお願いします。

プロフィールはこちら　→　http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/1i.html



献血にご協力を
若い皆さんの熱い友情を

血液を必要とする人すべてが輸血を受けられるように。
献血したことのある方もない方も、あらためてご協力をお願いします。
血液を必要としている人はあなたのすぐそばにいるかもしれません。

献血はどこでできるの？

献血は、献血ルームや献血バスで行うことかできます。
全国の血液センターや献血ルームは、日本赤十字社ホームページ（http://www.jrc.or.jp）に掲載しています。

献血はなぜ必要なの？

血液は様々な働きをしており、生命を維持するために不可欠のものです。そこで事故などで大量に血液が失われた人や、病気で正常な血液を造ることができなくなってしまった人には、血液を補充（輸血）することが必要になります。

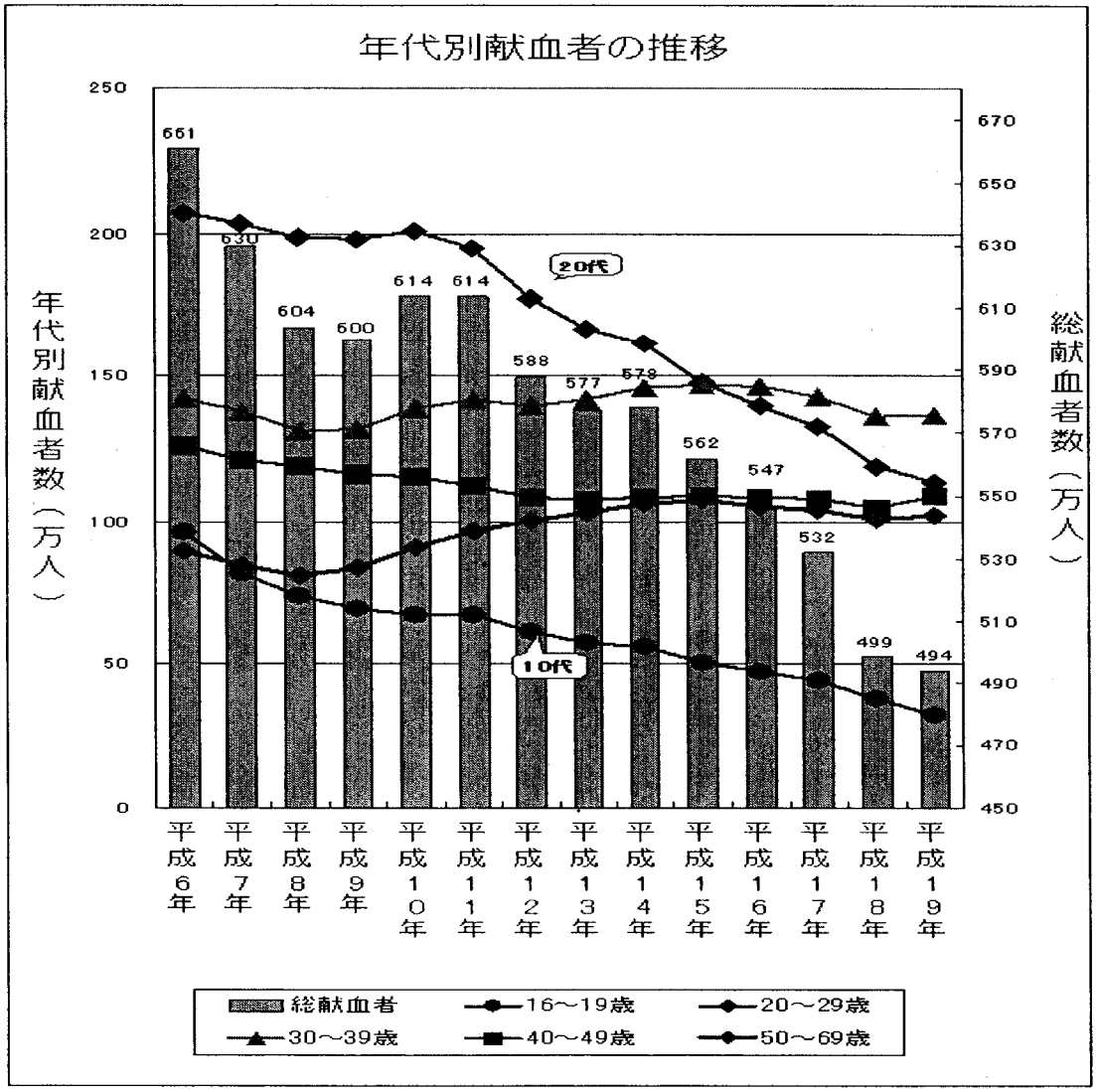
しかし、医療技術の発達した現在でも、血液と全く同じ作用をもつものを人工的に作ることはできません。医療に必要な血液は私たち自身が提供するほかに確保する方法がありません。

献血は、病気やけがで血液を必要としている人のために、見返りを求めず血液を提供することです。健康な人のボランティアによって、多くの人の命が救われているのです。

厚生労働省

お問い合わせ：
厚生労働省医薬食品局血液対策課献血推進係（電話 03-3595-2395）

献血者が減少しています



現代の医療に欠くことのできない血液。
その血液の確保が徐々に難しくなってきています。

原因の一つは若年献血者の減少。若年者数自体が少子化の影響で減少しているほか、若年人口に占める献血者の割合も減少していることから、若年者の献血離れが進んでいると言えます。

別の原因として、血液の安全対策の強化も挙げられます。
血液にはウイルスなど病気の原因となるものが潜んでいる可能性があり、献血の前の問診でいくつかの条件に当てはまる方については、献血をご遠慮いただいています。
感染症についての新たな事実が明らかになるにつれ、献血をご遠慮いただかなくてはならない人が増えてきているのです。

このままでは輸血を必要とする方々に血液が届けられないという危機的な状況となる可能性もあります。

献血はひとりひとりの思いやりによって支えられているシステム。皆さんのご協力をお願いします。